門奈 直樹先生
略年譜

学歴

1965年 3 月　同志社大学文学部社会学科新聞学専攻卒業
1968年 3 月　同志社大学大学院修士課程文学研究科新聞学専攻卒業

職歴

1967年 4 月　同志社大学文学部教授補助員
1968年 4 月　ヴィアトール学園洛星高等学校講師
1973年 4 月　桃山学院短期大学教養学科　専任講師
1975年 4 月　桃山学院短期大学教養学科　助教授
1978年 4 月　立教大学社会学部社会学科　助教授
1984年 4 月　立教大学社会学部社会学科　教授
2002年 4 月　立教大学大学院独立研究科21世紀社会デザイン研究科　教授（兼任）
2006年 4 月　立教大学社会学部メディア社会学科　教授
2008年 3 月　同　退職
2008年 4 月　京都産業大学大学院ソーシャル・マネージメント研究科，同大学経営学部客員教授（専任待遇）
2008年 6 月　立教大学名誉教授

海外研究

1984年 4 月　英国　レスター大学　マス・コミュニケーション研究所客員研究員（～1985年3月）
1991年 4 月　英国　ロンドン大学（ＬＳＥ）客員研究員（～1992年3月）
1993年 7 月　ブリティッシュ・カウンシル派遣奨励研究員（～1993年9月）
1995年 7 月　ブリティッシュ・カウンシル派遣奨励研究員（～1995年9月）
2001年 2 月　北京外国語大学大学院日本学研究センター社会コース主任教授（～2001年7月）

学会および社会における活動

1992年　社団法人　日本新聞協会研究所　新聞報道研究部会座長（～1995年）
1993年　社団法人日本記者クラブ個人Ｄ会員（～現在）
1995年　日本マス・コミュニケーション学会　理事（～1997年）
1996年　埼玉県所沢市社会教育委員会議副議長（～2005年）

1997 年　国際日本文化研究センター　共同研究員（～1999 年）
2001 年　中華人民共和国山西大学客座教授（～現在）
2005 年　日本 NIE（Newspaper in Education）学会　理事（～現在）

学内役職

1990 年 4 月　立教大学体育会スケート部長（2008 年 3 月）
1990 年 4 月　社会学研究科社会学専攻前期課程主任（～1991 年 3 月）
1992 年 4 月　社会学部社会学科長（～1996 年 3 月）
1997 年 4 月　社会学部長，社会学研究科委員長（～2001 年 3 月）
1997 年 4 月　学校法人立教学院評議員（～2001 年 3 月）
1997 年 4 月　学校法人立教学院健康保険組合理事長（～2001 年 3 月）
1998 年 4 月　学校法人立教学院理事（学部長互選理事）（～2001 年 3 月）
2002 年 4 月　立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科委員長（～2004 年 3 月）
2002 年 4 月　学校法人立教学院評議員（～2003 年 3 月）
2006 年 4 月　学校法人立教学院評議員（～2007 年 3 月）

その他特記事項

1996 年 9 月　立教大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程後期課程設置に伴う教員組織審査Ⓓ合教授（旧文部省大学設置審議会判定）
2006 年 11 月　所沢市教育功労賞

所属学会，他大学兼担講師等略

門奈 直樹先生
業績一覧

著　書

『現代の戦争報道』（岩波新書，2004 年）328
『民衆ジャーナリズムの歴史』（講談社学術文庫，2001 年）389
『ジャーナリズムの科学』（有斐閣選書，2001 年）355
『アメリカ占領時代・沖縄言論統制史－言論の自由の闘い－』（雄山閣，1996 年）286
『ジャーナリズムの現在』（日本評論社，1993 年）338
『民衆ジャーナリズムの歴史－自由民権から占領下沖縄まで－』（三一書房，1983 年）285
『沖縄言論統制史』（現代ジャーナリズム出版会，1970 年）377

編　著

『日本の転換－21 世紀を前にこの国はどこへ向かうのか』（毎日新聞社，2000 年）237

共編著

K. Kawatake and N. Monna (eds.,) Broadcasting in the Digital Age: System, Ethics and Journalism －Report of the Anglo-Japanese Broadcasting Forum－, Gakubunsha, Tokyo, 1998, 164
『デジタル時代の放送を考える－制度・倫理・報道－』（学文社，1997 年）213

著書論文（共著）

「国家・メディア・制度」（竹内郁郎他編『新版メディア・コミュニケーション論Ⅰ』北樹出版，2005 年，旧版の全面改稿）106-126
「ジャーナリズム教育のパースペクテイブ－諸外国の実践例から－」（花田達朗・廣井脩編『論争・いまジャーナリスト教育』東京大学出版会 2003 年）166-170
「国家・メディア・制度」（竹内郁郎他編『メディア・コミュニケーション論』北樹出版，1998 年）82-100
「戦時下におけるミニコミ紙の抵抗」歴史教育協議会編『草の根の反戦・抵抗の歴史に学ぶ』平和文化社，1998 年）26-31
「皇室報道にみるメディアの日本的特質」（色川大吉他編『現代の世相シリーズ第 7 巻「心とメディア」』小学館，1997 年）81-102
「グローバル・メディアと文化帝国主義」（見田宗介他編『岩波講座・現代社会学第 22 巻「メディアと情報化の社会学」』岩波書店，1996 年）115-132
「近代日本 100 年にみるマスコミの歴史責任」（日本ジャーナリスト会議編『マスコミの歴史責任と未来責任』高文研，1995 年）11-39
「歴史の中の第 4 の権力」「新聞の公共性と倫理」（日本新聞協会研究所新聞報道研究会編『いま新聞を

考える』日本新聞協会，1995 年）281-288/309-337
「新聞の歴史－世界－」（稲葉三千男他編『新聞学』，日本評論社，1995 年）20-35
「言論政策」（宮城悦二郎編『沖縄占領－未来へ向けて－』，ひるぎ社，1993 年）216-231
「マス・メディアの国際的再編とジャーナリズムの将来」（桂敬一他編『メディアと情報化の現在』，日本評論社，1993 年）76-108
「現代イギリスの新聞と放送の自由」（おんな通信社編『女子高生コンクリート詰め殺人事件』，社会評論社，1990 年）147-163
「イギリスにおける大学構外教育部の現状」（奥田道大・西山千明編『21 世紀の都市型大学に向けて』，時潮社，1990 年）139-162
「天皇死去報道の思想」（岩波新書編集部編『昭和の終焉』，岩波書店，1990）85-122
「英紙『ザ・タイムズ』の失敗－第二次世界大戦へのプロローグ－」（荒瀬豊他編『自由・歴史・メディア－マス・コミュニケーション研究の課題－』，日本評論社，1988 年）219-242
共同執筆『広域圏におけるテレビローカル放送』（東京大学新聞研究所編，東京大学出版会，1985 年）91-109/199-209/237-244/256-259/274-284/294-297/407-412
「中央メディアの歴史」「地方メディアの歴史」（越智昇他編『現代ニュー・メディア論』，学文社，1984 年）24-37/110-122
「歴史とジャーナリズム」（田村紀雄編『ジャーナリズムの社会学』，ブレーン出版，1977 年）11-52

資料監修・解説

「毛利柴庵と『牟婁新報』」（毛利柴庵『牟婁新報』全 15 巻，不二出版，2002 年）
「明治 30 年代の『毎日新聞』」（島田三郎『毎日新聞』全 53 巻，不二出版，1999 年）
「戦時下，ある小型ジャーナリズムの抵抗」（太田梶太主宰『現代新聞批判』全 7 巻，不二出版， 1995 年）
「明治 20 年代の『毎日新聞』」（島田三郎『毎日新聞』全 47 巻，不二出版，1993 年）
「『聖化』と非戦のジャーナリズム」（住谷天来主宰『聖化』全 2 巻，不二出版，1990 年）

監訳

ボブ・フランクリン編著『現代ジャーナリズム事典』（原題＝Key Concepts in Journalism Studies, SAGE＝国書刊行会，2009 年 4 月刊予定）

雑誌掲載論文

「BBC と権力の位置－市民国家における公共放送とは－」（明石書店『現代の理論』2007 年夏号）61-69
「国際放送の〈いま〉を考える－英国政府と BBC ワールドサービスの対応」（日本新聞協会『新聞研究』2007 年 2 月号）58-62
「市民社会の“公共放送”とは－BBC に関する英『放送白書』から NHK 改革論議を読む」（日本新聞協会『新聞研究』2006 年 7 月号）56-59
「新聞の公共性を考える－イギリスにおけるプレス論議にその役割を見る」（日本新聞協会『新聞研究』2006 年 5 月号）10-14

「BBC にみる放送の公共性と市民社会」（青土社『現代思想』2006 年 3 月号）145-157
「公共放送の将来－英 BBC はいかにして受信料制度を維持したか－」（朝日新聞社総合研究本部『朝日総研リポート・AIR21』2005 年 12 月号）2-20
「放送の独立とは何か－BBC 問題から NHK 問題を照射する－」（岩波書店『世界』2005 年 4 月号）196-205
「国際報道と日本のマスメディア－イラク戦争物語はどう作られたか－」（歴史教育者協議会『歴史地理教育』669 号，2004 年 5 月号）22-29
「情報操作疑惑－英ハットン報告書はメディア界に何を残したか－」（朝日新聞社総合研究本部『総研リポート・AIR21』2004 年 4 月号）10-19
「中国・社会主義タブロイド紙『都市報』の行方」（日本新聞協会『新聞研究』2003 年 1 月号）38-43
「中国－激変するメディア環境と教育」（東京社『総合ジャーナリズム研究』2002 年冬季号）42-48
「英大衆紙の部数拡大主義と『社会正義』－小児性犯罪前歴者公表と英国社会－」（日本新聞協会『新聞研究』2000 年 11 月号）69-72
「ジャーナリズムの歴史責任と未来責任－近代日本の『戦争』と『平和』の言論－」（『マスコミ市民』2000 年 7 月号）26-39
「コソボ戦争とマスメディア」（岩波書店『世界』2000 年 3 月号）154-158
「96 年に V チップ導入見合わせ－イギリスの精巧な規制システム－」（日本民間放送連盟『月刊民放』1998 年 8 月号）12-15
「メディアのグローバル化と現代の情報環境－マードックの事業軌跡を手がかりに－」（財団法人情報処理教育助成財団『FINIPED』NO89，1998 年 2 月）22-26
「『報道の自由』の旗を高く掲げよ！」（放送批評懇談会『放送批評』1997 年 5 月号）8-11
「ペルー人質事件から考える言論・報道の自由－『人命尊重』も批判精神で裏打ちして－」（日本新聞協会『新聞研究』1997 年 3 月号）35-38
「マードックの野望と行状－市場志向型ジャーナリズムの死角－」（東洋経済新報社『週刊東洋経済』1997 年 2 月 22 日号）108-111
「戦後 50 年目の戦争認識－英国マス・メディアの対日“戦勝”報道－」（戦争責任資料センター『季刊戦争責任研究』No11，1996）24-31
「英プライバシー法案と PCC の行方」（東京社『総合ジャーナリズム研究』1996 年冬季号）39-47
「英メディアは『戦後五〇年』をどう伝えたか」（潮出版社『潮』1996 年 1 月号）238-248
「英国 VJ デー『反日報道』の背景」（日本新聞協会『新聞研究』1995 年 11 月号）67-70
「漂流する政治ジャーナリズム」（公明党『公明』NO399，1995 年 3 月号）75-85
「メディアの公共性とテレビ・ジャーナリズムの質－放送の公平と公正を考える（5）－」（メディア総合研究所『放送レポート』132 号，1995 年 1 月号）45-49
「現代ジャーナリズムの『傲慢不遜』を糾す」（潮出版社『潮』1994 年 11 月号）122-129
「テレビ・ジャーナリズムの質とはなにか－放送の公平・公正を考える（4）－」（メディア総合研究所『放送レポート』131 号，1994 年 11 月号）31-35
「英 BBC 放送のサバイバル作戦－白書『BBC の将来』にみる放送政策の転換」（東京社『総合ジャーナリズム研究』1994 年秋季号）63-68
「英 BBC 放送の『公平』『公正』観－放送の公平・公正を考える（3）－」（メディア総合研究所『放送

レポート』130 号，1994 年 9 月号）34-38
「イギリス民放の『公平』『公正』論議－放送の公平・公正を考える（2）－」（メディア総合研究所『放送レポート』129 号，1994 年 7 月号）52-56
「テレビと政治の危険な関係－いま問われるテレビ・ジャーナリズム－」（日本放送出版協会『放送文化』1994 年 7 月号）58-65
「イギリス民放の選挙報道ガイドライン－放送の公平・公正を考える（1）－」（メディア総合研究所『放送レポート』128 号，1994 年 5 月号）18-23
“The Current Situation of Mass Communication Education in Japan”（立教大学社会学部『応用社会学研究』NO.36，1994）28-52
「ジャーナリズムとしてのテレビのあり方」（日本民間放送連盟『月刊民放』1994 年 2 月号）22-26
「テレビ選挙報道の欠陥を問う」（朝日新聞社『月刊 ASAHI』1994 年 1 月号）56-61
「日本の選挙報道の何が今，問われているか」（日本民間放送労働組合連合会『放送レポート』124 号，1993 年 9，10 月合併号）2-7
「マス・メディアの選挙報道と有権者の投票行動」（『公明』1993 年 7 月号）23-36
「現代イギリスのポピュラー・ジャーナリズム－メディア神話の崩壊と再生－」（日本マス・コミュニケーション学会『マス・コミュニケーション研究』42 号，1993 年）14-30
「イギリス CATV 界の遠い夜明け」（総合ジャーナリズム研究所『総合ジャーナリズム研究』1992 年秋季号）76-84
「英 CATV は“まじめな”番組を変えるか」（時事通信社『世界週報』1992，9，22 号）40-45
「現代における情報操作－政治とメディアの危険な関係－」（マスコミ市民会議『マスコミ市民』1992 年臨時増刊号）36-41
「激変する西ヨーロッパのマス・メディア－メディアの国際的再編とジャーナリズム－」（毎日新聞社『エコノミスト』1992，7，28 日号）32-38
「英国メディアを操ったダウニング街の仕掛人たち」（時事通信社『世界週報』1992，6，9 号）40-45
「湾岸戦争とイギリスのマス・メディア」（岩波書店『世界』1991，10 月臨時増刊号）198-207
「EC 統合とイギリス雑誌界の苦悩」（総合ジャーナリズム研究所『総合ジャーナリズム研究』1991 年秋季号）20-29
「戦争・メディア・世論－迷走する現代ジャーナリズム－」（放送批評懇談会『放送批評』1991 年 6 月号）14-21
「国益とジャーナリズム－今，問われる危機の報道－」（岩波書店『世界』1991 年 2 月号）104-114
「戦争と平和のジャーナリズム－戦後史の中の“8・15”社説－」（マスコミ市民会議『マスコミ市民』1989 年 11 月-90 年 1 月号）20-29/24-32/42-59
「新聞とファッシズム－第二次世界大戦前夜のイギリスの言論－」（日本新聞協会『新聞研究』1989 年 9 月号）34-42
「サッチャー政権とイギリス放送界の行方－問題の所在と今日の動向－」（マスコミ市民会議『マスコミ市民』1989 年 8 月号）52-68
「フリート・ストリートの終幕－マードックとマックスウェルの熾烈な闘い－」（総合ジャーナリズム研究所『総合ジャーナリズム研究』1989 年冬季号）66-74
「国際化時代と日本のジャーナリズム－天皇報道の危険な落し穴－」（マスコミ市民会議『マスコミ市

民』1988年12月号）28-47
「最近イギリス新聞事情－その後のフリート・ストリート－」（日本新聞協会『新聞経営』102号，1988年）34-41
「歴史のなかの朝日新聞襲撃事件」（破防法研究会『破防法研究』60号，1988年）15-26
「出版物への課税は知識への課税－イギリスの付加価値税反対運動から学ぶ－」（出版ニュース社『出版ニュース』1987年3月中旬号）8-12
「マードックの新聞を買うな－病めるイギリス社会での民衆の怒り－」（総合ジャーナリズム研究所『総合ジャーナリズム研究』1987年冬季号）66-74
「政治現象からみた現代ジャーナリズム」（マスコミ市民会議『マスコミ市民』1987年1月号）18-30
「歴史的転換期にたつイギリス新聞界」（日本新聞協会『新聞研究』1987年1月号）83-88
「最近イギリス・マスコミ事情4－人民戦線運動と同時代の知識人たち－」（総合ジャーナリズム研究所『総合ジャーナリズム研究』1986年夏期号）50-61
「歴史のなかの戦後ジャーナリズム－いま，問われる言論の危機とは何か－」（マスコミ市民会議マスコミ市民』1986年4月号）10-22
「最近イギリス・マスコミ事情3－マスコミ・ジャーナリズム教育の現状－」（総合ジャーナリズム研究所『総合ジャーナリズム研究』1986年春期号）42-54
「現代ジャーナリズムの一断面－いま，なぜ新聞批判が必要なのか－」（マスコミ市民会議『マスコミ市民』1986年2月号）2-15
「最近イギリス・マスコミ事情2－放送界の現況と商業テレビの動向－」（総合ジャーナリズム研究所『総合ジャーナリズム研究』1986年冬季号）62-75
「最近イギリス・マスコミ事情1－ザ・タイムズと新聞界の現況－」（総合ジャーナリズム研究所『総合ジャーナリズム研究』1985年秋季号）26-39
「ザ・タイムズの二百年－イギリス言論界の一つの節目－」（総合ジャーナリズム研究所『総合ジャーナリズム研究』1985年春期号）15-25
「1984年・政治とジャーナリズム－時代の分岐点にさしかかって－」（マスコミ市民会議『マスコミ市民』1984年2月号）2-14
「明治地域主義言論の担い手－毛利柴庵と『牟婁新報』－」（総合ジャーナリズム研究所『総合ジャーナリズム研究』1983年夏期号）46-56
「ある農民運動家の蹉跌のコミュニケーション－荒岡庄太郎と『問題』－」（青山社『田中正造とその時代』2号，1982年）2-14
「『現代新聞批判』とその周辺－戦時下ある小型ジャーナリズムの抵抗－」（総合ジャーナリズム研究所『総合ジャーナリズム研究』1982年春期号）130-140
「小林橘川と『名古屋新聞』－ある自由主義ジャーナリストの敗北－」（総合ジャーナリズム研究所『総合ジャーナリズム研究』1981年秋季号）114-124
「碧川企救男と反戦のジャーナリズム－明治社会主義言論の周辺－」（総合ジャーナリズム研究所『総合ジャーナリズム研究』1981年冬季号）110-120
「住谷天来と『聖化』－戦時下ある非戦の言論－」（総合ジャーナリズム研究所『総合ジャーナリズム研究』1980年秋季号）86-95
「弘中柳三と『中国評論』－暗い時代の地方言論人－」（総合ジャーナリズム研究所『総合ジャーナリズ

ム研究』1980年春季号）84-93
「地方プロレタリア・ジャーナリズムの史的展開－愛媛『大衆時代』の周辺－」（立教大学社会学部『応用社会学研究』20号，1979年）
「シラケか創造志向か－現代若者論を衝く－」（マスコミ文化会議『マスコミ文化』1979年2月号）
「自由民権運動と西河通徹－ある木鐸的言論人の軌跡－」（総合ジャーナリズム研究所『総合ジャーナリズム研究』1977年冬季号）64-72
「忘れられた言論人・西河通徹」（桃山学院短期大学『桃山学院短期大学紀要』2号，1975年）
「戦後沖縄ジャーナリズムの形成過程－民衆言論成立の一系譜として－」（日本新聞学会『新聞学評論』21号，1972年）1-14
「占領下言論弾圧の論理と実践－アメリカ占領軍の沖縄における実態－」（同志社大学大学院『新聞学』2号，1968年）

調査報告

「アイルランドのメディア最新事情」（東京社『総合ジャーナリズム研究』2000年春季号）44-54
共同報告「テレビを市民にとり戻そう－自由で公正な放送制度のための10の提言－」（岩波書店『世界』1994年10月号）22-51
「政治ジャーナリズム批判の展開過程－80年代の議論の方向性と広がり－」（日本新聞学会『新聞学評論』39号，1990年）5-13
「キー・ノート報告にみる英国新聞界の経営概況」（日本新聞協会『新聞経営』1987年春季号）8-13
共同執筆「文献改題」（和田洋一編『新聞学を学ぶ人のために』世界思想社1980年）
「昭和初年の新聞販売店争議－四国・間島事件の場合－」（桃山学院短大『瀬戸内文化』3号，1977年）
「沖縄における言論の自由の問題－『人民』裁判の記録を中心に－」（同志社大学大学院『新聞学』1号，1967年）

辞典等項目執筆

樺山紘一他編『歴史学辞典第15巻－コミュニケション－』（弘文堂，2008年）
スーパー・ニッポニカ編集委員会『日本大百科全書（「スーパー・ニッポニカ」）』（小学館，2005年）
西垣通他編『情報学事典』（弘文堂，2002年）
日本新聞協会『新聞年鑑2001年版』（日本新聞協会，2000年）
日本新聞協会『新聞年鑑2000年版』（日本新聞協会，1999年）
日本史文献辞典編集委員会『日本史文献辞典』（吉川弘文館，1999年）
森岡清美他編『新社会学辞典』（有斐閣，1993年）
国史大辞典編集委員会『国史大辞典』（吉川弘文館，1991年）
朝日新聞社『朝日現代人物辞典』（朝日新聞社，1990年）
朝日新聞社『週刊朝日百科・日本の歴史117号』（朝日新聞社，1988年）

学界活動・国際学術交流

Working party speaker “Foreign Country and Foreigner Image appearing in the Television Commercials in Japan-Media and Globalization-” Beijing Forum (2005)：“The Harmony of Civiliza-

tions and Prosperity for All-Asia's Opportunity and Development in Globalization" November 16th-18th, 2005, The Great Hall of the People in Beijing, Beijing University（北京大主催・韓国財団協賛「第二回北京国際フォーラム」分科会「アジアにおけるポピュラー文化」招聘講師，2005年11月16-18日）

学術交流招聘講師「メディアと危機管理－日本の場合－」（中国・清華大学公共管理学院セミナー，2004，8，25）

シンポジウム・パネリスト「いまマスコミに問われているもの－イラク戦争とメディア－」（社団法人マスコミ倫理懇談会2003年6月7日）

シンポジウム討論者「地域社会「長崎」が描く戦後史像」（日本マスコミュニケーション学会春季大会，2003年）

Session Ⅳ: Key Note Speaker "The Role of Media in the Age of Globalization", UNN Global Seminar 2nd Hokkaido Session "Information and Media in the age of Globalization" UNN, 27-30 August, 2002（国連大学主催第二回国連大学グローバル・セミナー北海道会議「グローバリゼーション時代の情報とメディア」第4分科会講師）

学術研究会招聘講師「日本のジャーナリズム研究の現在」（中国社会科学院日本研究所主催，2001年6月30日）

客座教授就任講演会「日本のメディア環境とジャーナリズム教育」（中国・山西大学2001年6月25日）

研究会司会「新・新聞倫理綱領の制定過程」（日本マスコミュニケーション学会ジャーナリズム研究部会，2000年）

研究会報告「英国プレスの自主規制事情－ダイアナ事故死をめぐるPCCおよび英国報道界の動きを中心に－」（日本マスコミュニケーション学会ジャーナリズム研究部会，1997年）

研究会司会「プライバシーとジャーナリズム」（日本マス・コミュニケーション学会ジャーナリズム部会研究会，1997年）

国際シンポジウム・コーディネーター「デジタル時代の放送の制度・倫理・報道」（日英放送フォーラム実行委員会・ブリティッシュ・カウンシル共催，放送文化基金・大和日英基金後援，日本マスコミュニケーション学会協賛『1997国際シンポジウム"デジタル時代の制度・倫理・報道"－いま放送の将来を考える－』1997年3月19日）

ワークショップ司会「ジャーナリズムにおけるグローバリズムとローカリズム－1995年沖縄報道を手がかりに－」（日本マス・コミュニケーション学会春季大会，1996年）

テーマセッション司会「変貌する沖縄と地域メディアの役割」，シンポジウム報告者「地域メディアとグローバライゼーション」（日本マス・コミュニケーション学会春季大会，1994年）

Symposium panelist "The Current Situation of Mass Communication Education in Japanese University" International Conference on Communications in North-East Asia, Seoul Univ., Korea, 15 November, 1993（韓国・ソウル大主催「北東アジアにおけるコミュニケーションに関する国際会議」1993・11・15）

ワークショップ司会「報道自粛を考える－皇太子妃報道を中心に－」（日本マス・コミュニケーション学会春季大会，1993年）

シンポジウム・パネリスト「米軍と民衆」（沖縄県主催，那覇市・沖縄市・宜野湾市共催『復帰20周年記念・沖縄占領国際シンポジウム』1992年9月11-12日）

テーマセッション報告者「歴史的に見た日本のジャーナリズムの特質」（日本マス・コミュニケーション学会春季大会，1992 年）
ワークショップ司会「第二次大戦と日本のジャーナリズム」（日本新聞学会秋季大会，1989 年）
研究会報告「イギリスの放送事情－在外研究の成果から－」（日本新聞学会第一回研究会，1985 年）
共同研究「広域放送圏における放送の機能－和歌山県の事例－」（日本新聞学会春季大会，1982 年）
シンポジウム討論者「地域メディアのありかた－沖縄のマス・コミュニケーション状況－」（日本新聞学会春季大会，1981 年）
シンポジウム司会「日本出版学会創立 10 周年」（日本出版学会，1979）
シンポジウム討論者「ジャーナリズムの責任－史的分析－」（日本新聞学会春季大会，1975 年）
個人研究「復帰直前の沖縄ジャーナリズム－その動向と今後の課題－」（日本新聞学会春季大会，1971 年）

時事評論

「嗚呼，ジャーナリズムよ！－“時代の改革運動に従事”するために」（東京社『総合ジャーナリズム研究』2007 年春季号）
「『マスコミ市民』と城戸先生，そして私」（マスコミ市民フォーラム『マスコミ市民』2007 年 3 月号）
「放送命令－英 BBC の独立性を見習え－」（『朝日新聞』2006，10，22 朝刊）
「曲がり角に立つ英公共放送 BBC－『放送白書』の意味するもの」（岩波書店『世界』2006 年 6 月号）
「「NHK 再生の道筋を探る」（日本放送労働組合『NIPPORO』1630 号，2006 年 3 月号）
「『沖縄言論統制史』出版の頃」（日本ジャーナリスト会議編『ジャーナリストとして生きる－証言で綴る JCJ50 年の歩み－』日本ジャーナリスト会議，2005 年刊）
「NHK の『危機』とはなにか－ BBC との対比で『新生プラン』を読む－」（日本放送労働組合『NIPPORO』1625 号，2005 年 11 月号）
「公共放送－報道の価値と独立の再確認を－」（『朝日新聞』2005，10，7 朝刊）
「ブレア首相の意趣返し－ BBC 改革政府案に反発－」（日本ジャーナリスト会議『ジャーナリスト』567 号，2005，6，25）
「戦争とメディア」（学習の友社『学習の友』2005 年 7 月号）
「リレー時評－抗議辞任の BBC 会長－」（日本ジャーナリスト会議『ジャーナリスト』552 号，2004，3，25）
「戦争報道の公正さとは」（『公明新聞』2003，8，1）
「世界の潮・戦争とメデイア－イラク報道は何を示したか－」（岩波書店『世界』2003 年 6 月号）
「イラク戦争とメデイア－問われるジャーナリストの良心－」（『北海道新聞』2003，5，7 夕刊）
「テレビ時評－何を伝えるかが重要－」（『赤旗』2003，4，10）
“Media must form guidelines for war reports” Japan edition, International Herald Tribune, April 5-6, 2003.
「私の視点－戦争報道指針を作成せよ－」（『朝日新聞』2003，3，20 朝刊）
「再提出　個人情報保護法案への危ぐ－残る公権力介入の余地－」（『信濃毎日新聞』2003，3，15 朝刊）
「テレビ時評－単純化で戦争の世論作り－」（『赤旗』2002，11，29）
「戦争報道における『虚』と『実』－現代のメディア環境を照射する－」（サンラ出版『力の意志』2002

年 12 月号）
「中国で，そして，帰国して思ったこと」（共同通信社『月刊健康』2002 年 7 月号）
「世界の潮・アフガン戦争と BBC の挑戦」（岩波書店『世界』2002 年 5 月号）
「中国のマスコミ・ジャーナリズム研究の現在」（有斐閣『書斎の窓』2002 年 1，2 月合併号）
「ジャーナリズムとジャーナリズム研究の現在」（有斐閣『書斎の窓』2001 年 5 月号）
「米軍統治下の出版禁止－『愛唱歌集』回収事件－」（琉球新報社『沖縄・20 世紀の光芒』2000 年）
「人－桐生悠々－」（朝日新聞社『週刊 20 世紀－ 1933・34－』2000 年）
「21 世紀・テレビが変わる－放送内容への目配りは？－」（『赤旗・日曜版』1999，8，1）
「『中央公論』を呑み込んだ読売新聞社への懸念」（『週刊金曜日』1998 年 11 月 13 日号）
「『北海タイムス』廃刊で見える日本のジャーナリズムの負の遺産」（『週刊金曜日』1998 年 9 月 11 日号）
「「機関紙『新聞労連』一千号を迎えて」（日本新聞労働組合連合『新聞労連』1998 年 7 月 15 日号）
「私の新聞批評－なぜ自社系列テレビ局の問題を報じないのか－」（講談社『週刊現代』1998 年 4 月 11 日号）
「マスメディアの社会的機能と人権」（全国保険医団体連合会『月刊保団連』1997 年 11 月号）
「いま，問われる新聞の社会的機能とは」（新聞労連・現代ジャーナリズム研究会編『50 人からのメッセージーいま，新聞に言いたい』日本新聞労働組合連合会，1997 年）
「世界のメディア環境と『良心宣言』」（新聞労連・現代ジャーナリズム研究会編『新聞人の良心宣言－新聞報道［検証］SERIES－』日本新聞労働組合連合会，1997 年）
「民益重視の論陣が劇的迫力」（琉球新報編『ブックレット・沖縄へのメッセージ』琉球新報社出版部，1997 年）
「私の新聞批評－ペルー人質事件の情緒報道にみる新聞の未成熟－」（講談社『週刊現代』1997 年 2 月 8 日号）
「抵抗のジャーナリズム－実り新たなデモクラシー提示」（『沖縄タイムス』1996，9，5 朝刊）
「サンデー時評－ TBS 問題の本質－」（『公明新聞』1996，4，14）
「ジャーナリズムは今－私はこう考える－」（潮出版社『潮』1995 年 5 月号）
「戦後 50 年と日本のマスコミ」（日本民主主義文学同盟『民主文学』NO352，1995 年 3 月号）
「記者クラブ改革提言への意見－イギリスのロビー・システムとの比較で－」（ブックレット『提言・記者クラブ改革』（日本新聞労働組合連合会新聞研究部編，1994 年 6 月）
「マス・メディアと人権」（立教大学『立教』148 号，1994 年）
「不思議な国の精神風景－今，なぜイギリスなのか－」（立教大学チャペル『チャペル・ニュース』1992 年 9 月号）
「オキナワの未来に向けて－沖縄占領国際シンポへの期待－」（『沖縄タイムス』1992，9，10 朝刊）
「ある新聞王の自滅－マックスウェルと現代のメディア環境－」（『朝日新聞』1991，12，24 夕刊）
「危機の時代の非戦のジャーナリズム－『聖化』の復刻に寄せて－」（『毎日新聞』1991，2，12 夕刊）
「討論・NHK の議論と方向」（総合ジャーナリズム研究所『総合ジャーナリズム研究』1990 年秋季号）
「国際化時代のなかの天皇報道」（立教大学『立教』134 号，1990 年）
「秘密主義の皇室報道」（『赤旗』1990，7，27,）
「新聞週間に寄せて－いまこそ理想主義の情熱を－」（『信濃毎日新聞』1989，10，18 朝刊）

「ヒットラーとイギリスのジャーナリズム」（日本共産党『赤旗』1989，1，6）
「準備された過剰報道」（図書新聞社編『ブックレット・天皇をめぐる開かれた論議』，羊泉社，1989）
「ヒットラー侵攻の 50 年」（『図書新聞』1989，1，1）
「天皇報道と日本主義の台頭」（日本共産党『赤旗』1988，10，30）
「天皇制下の地方言論人」（日本共産党『赤旗』1987　11 月-12 月週一回の連載）
「米占領下の沖縄ジャーナリズム」（日本共産党『赤旗』1987，5，21）
「国の知性狂わす国秘法」（日本共産党『赤旗』1987，4，21）
「新聞企業の巨大化と不買運動」（『図書新聞』1987，1，24）
「人民戦線運動と左翼読書クラブ」（『図書新聞』1987，1，24）
「英国の良心が支えた新聞－『ザ・タイムズ』の二百年－」（東京大学新聞資料センター『資料センター・ニュース』1 号，1986）
「文化の蓄積としての新聞－英新聞図書館を訪ねて－」（『毎日新聞』1985，6，15 夕刊）
「ロッキード報道」（総合ジャーナリズム研究所『総合ジャーナリズム研究』1984 年冬季号）
「明治の地域主義言論」（『毎日新聞』1983，4，13 夕刊）
「二人の新聞人－小林橘川と桐生悠々－」（『毎日新聞』1981，4，13 夕刊）
「青年の旅立ち」（立教大学『ニューズ立教』44 号，1981 年）
「戦時下ある小型ジャーナリズムの抵抗」（『毎日新聞』1979，10，2 夕刊）
「私の研究－ジャーナリズム史の旅－」（立教大学『立教』90 号，1979 年）
「『伊予史談』のこと」（日本出版学会『会報』37 号，1979 年）
「新聞の使命」（『愛媛新聞』1975，10，5 朝刊）
「戦後三十年・ジャーナリズムの責任」（『愛媛新聞』1975，7，5 朝刊）
「時事随想『四季録』」（『愛媛新聞』1975，4，3-9，2 まで 24 回連載）
「都市とコミュニケーション」（大倉建設『あおぞら』1 号，1972 年）

書評

グレッグ・ダイク著・平野次郎訳「真相－イラク報道と BBC－」（『北海道新聞』2006，9，3 朝刊）
エドガール・モラン著，浜名優美他訳「出来事と危機の社会学」（立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科『社会デザイン研究』2 号，2004 年 3 月刊）
佐高信「面々授受」（『北海道新聞』2003，6，29 朝刊）
金賛汀「検証・幻の新聞『民衆時報』」（日本ジャーナリスト会議『ジャーナリスト』2001 年 9 月 25 日号）
ジョアンナ・ヌーマン著・北山節郎訳「情報革命という神話」（日本ジャーナリスト会議『ジャーナリスト』1998 年 8 月 15 日号）
原寿雄「ジャーナリズムの思想」（『公明新聞』1997 年 6 月 2 日号）
久野収「市民主義の成立」（『北海道新聞』1996，8，25 朝刊）
エドウィン・M・ラインゴールド著，鈴木健次他訳「菊と刺」（『北海道新聞』1996，3，17 朝刊）
平井正「20 世紀の権力とメディア」（『公明新聞』1995 年 5 月 22 日号）
Simon Cottle “TV News, Urban Conflict and the Inner City”（丸善『学鐙』1994 年 5 月号）
モハメド・ヘイカル著，和波雅子訳「アラブから見た湾岸戦争」（『北海道新聞』1994，4，10 朝刊，

『東京新聞』『中日新聞』各 1994，4，24 朝刊）
鈴木範久「内村鑑三日録－一高不敬事件－」（立教大学『立教』1993 年 5 月号）
中奥宏「ドキュメント『昭和』の記録全報道記録」（出版ニュース社『出版ニュース』1989 年 3 月下旬号）
中瀬喜陽編「南方熊楠書簡」（『図書新聞』1988，10，15）
田村紀雄他著「米国初期の日系新聞」（『図書新聞』1987，1，1）
清水勲編「漫画の歴史」（立教大学『立教』1986 年 11 月号）
「出版ジャーナリズムと〈戦後〉－三著にみるそれぞれの戦後精神－」（出版ニュース社『出版ニュース』1985 年 9 月下旬号）
高木建夫他編「新聞集成昭和史の証言」（『図書新聞』1984，1，16）
粟屋憲太郎「昭和の政党」（立教大学『立教』1984 年 3 月号）
「旧刊文庫－草の根ジャーナリストの自伝－」（『図書新聞』1982，2，13）
「ありがたい本，めいわくな本－ロバート・ランズナー『落書の世界』」（『図書新聞』1981，9，19）
山本武利「近代日本の新聞読者層」（出版ニュース社『出版ニュース』1981 年 9 月上旬号）
田村紀雄「明治両毛の山鳴り」（『図書新聞』1981，5，30）
清水英夫「書斎の窓」（『聖教新聞』1980，6，4）
佐藤忠雄「新聞に見る北海道の明治・大正」（出版ニュース社『出版ニュース』1980 年 4 月上旬号）
鶴見俊輔他編「抵抗と持続」（出版ニュース社『出版ニユース』1979 年 5 月上旬号）
太田昌秀「沖縄の民衆意識」（出版ニュース社『出版ニュース』1976 年上旬号）
太田雅夫編「桐生悠々自伝」（桃山学院短期大学『桃山学院短大紀要』1 号，1979 年）

座談会・鼎談・シンポジウム記録

鼎談「マスメディアはなぜ原点を見失ったか」（元東大教授桂敬一らと，新日本出版社『経済』2006 年 6 月号）
鼎談「イラク戦争をどう伝えたか－問われるジャーナリズム－」（フリー・ジャーナリスト綿井健陽らと，新日本出版社『経済』2004 年 7 月号）
対談「ジャーナリズム再生への道筋－『グローバリズム』時代とマス・メデイアー」（弁護士小池振一郎と，クオリテイ研究所出版事業局『自由メデイアトークの会・記録』2003 年）
シンポジウム「埼玉に地方紙は必要か－市民参加型新聞を考える」（さいたま市議田口禎則らと，埼玉新聞社，2002 年）
座談会「児童買春・ポルノ禁止法案」（青山学院名誉教授清水英夫らと，文芸春秋社『諸君』1999 年 1 月号）
鼎談「動揺する『テレビ報道』の概念」（TBS 報道局長金平茂紀らと，放送批評懇談会『GALAC』1998 年 9 月号）
鼎談「テレビはどう見られるようになるか」（アムステルダム大学名誉教授デニス・マクウェールらと，岩波書店『世界』1998 年 6 月号）
鼎談「検証座談会－記者クラブの害悪」（評論家嶌信彦らと，小学館『週刊ポスト』1997 年 1 月 31 日号）
鼎談「記者クラブ制度－その功罪を改めて考える－」（共同通信論説副委員長藤田博司らと，新聞労連

編『新聞報道「検証」－記者クラブ－』柏書房，1996）
シンポジウム「マスコミ報道と人権侵害を考える」（創価学会副会長西口浩らと，マスコミ情報センター『マスコミ市民』1996 年 6 月号）
座談会「沖縄・安保報道を検証する」（静岡県立大教授前坂俊之らと，新聞労連編『新聞報道「検証」－沖縄－』MOOK 編集委員会，1996）
座談会「米軍基地問題と報道の役割」（琉球新報東京支社長宮良健典らと，マスコミ情報センター『マスコミ市民』1996 年 1-2 月号）
鼎談「基地・人権と報道」（『琉球新報』1995，10，16 朝刊）
対談「国際化のなかの英日メディア事情」（英国ウエストミンスター大教授コリン・スパークスと，岩波書店『世界』1994 年 10 月号）
鼎談「椿発言の荒唐無稽を越えて」（青山学院大名誉教授清水英夫らと，日本民間放送労働組合連合会『放送レポート』1994 年 1，2 月合併号，126 号）
鼎談「復帰 20 年を終えた沖縄と新聞の役割」（琉球新報社長三木健らと，日本新聞協会『新聞研究』1993 年 8 月号）
対談「日本のマス・メディアの国際化への道」（立命館大教授鈴木みどりと，マスコミ市民会議『マスコミ市民』1992 年 11 月号）
対談「未来志向の『新聞』像」（英国『インディペンデント』紙社長兼主筆ウイッタム・スミスと，日本新聞協会『新聞研究』1992 年 3 月号）
座談会「『皇室新時代』とジャーナリズム」（朝日新聞編集局次長伊藤直らと，日本新聞協会『新聞研究』1991 年 2 月号）

TV・ラジオ出演

TBS テレビ「サンデー・モーニング・イラク戦争報道」（2003，3，30）
NHK・BS 1「BS ニュース 23－イラク戦争」（2003，3，27）
日本テレビ「ズームイン SUPER－チェック・ジャーナリズム疑惑」（2002，11，5）
TBS テレビ「TBS レビュー・報道のモザイク指針」（2000，10，28）
山陽放送ラジオ「イブニングネットワーク－日本の転換－」（2000，3，13）
NHK ラジオ第一「ラジオ深夜便－新聞を読んで－」（1999，11，14）
NHK ラジオ第一「ラジオ深夜便－新聞を読んで－」（1999，9，25）
NHK 教育テレビ「五輪の書－現代仕事ファイル・ニュース・デスク－」（1999，8，22）
NHK ラジオ第一「ラジオ深夜便－新聞を読んで－」（1999，6，6）
NHK ラジオ第一「ラジオ深夜便－新聞を読んで－」（1999，3，13）
NHK ラジオ第一「ラジオ深夜便－新聞を読んで－」（1998，12，5）
NHK ラジオ第一「ラジオ深夜便－新聞を読んで－」（1998，8，1）
NHK ラジオ第一「ラジオ深夜便－新聞を読んで－」（1998，5，10）
朝日ニュースター（CS テレビ）「ザ・ディベート－著作物の再販制度規制緩和は正しいか－」1998，1，31）
NHK ラジオ第一「ラジオ深夜便－新聞を読んで－」（1998，1，11）
NHK ラジオ第一「ラジオ深夜便－新聞を読んで－」（1997，9，7）

NHK 教育テレビ「五輪の書－世の中探検隊〈マスメディア〉－」(1997，7，8)
テレビ朝日「報道特別番組－大使公邸人質事件で ANN・テレビ朝日が問われたこと－」(1997，5，10)
NHK ラジオ第一「ラジオ深夜便－新聞を読んで－」(1997，5，4)
NHK 教育テレビ「金曜フォーラム－デジタル時代の制度・倫理・報道＝いま放送の将来を考える－」(1997，4，18)
フジ TV「ニュース・JAPAN－マードック，『朝日』に株の売却－」(1997，3，3)
TBS テレビ「TBS レビュー－記者が恐喝を作る？－」(1997，1，25)
TBS テレビ「NEWS 23－緊急討論・リマ“突撃取材”は愚挙か－」(1997，1，13)
NHK ラジオ第一「ラジオ深夜便－新聞を読んで－」(1996，12，1)
NHK ラジオ第一「ラジオ深夜便－新聞を読んで－」(1996，8，3)
NHK ラジオ第一「ラジオ深夜便－新聞を読んで－」(1996，3，31)
NHK 教育テレビ「ETV 特集－放送は戦争をどう伝えたか－」(1995，4，27)
テレビ朝日「ニュース・ステーション－椿発言と証人喚問－」(1993，10，25)
読売テレビ「激論パラダイム 91 年 2 月－迫られる決断！どうなる湾岸戦争－」(1991，2，2)
NHK 和歌山放送局 TV「近畿の話題－見つかった明治の地方紙創刊号－」(1982，7，12)